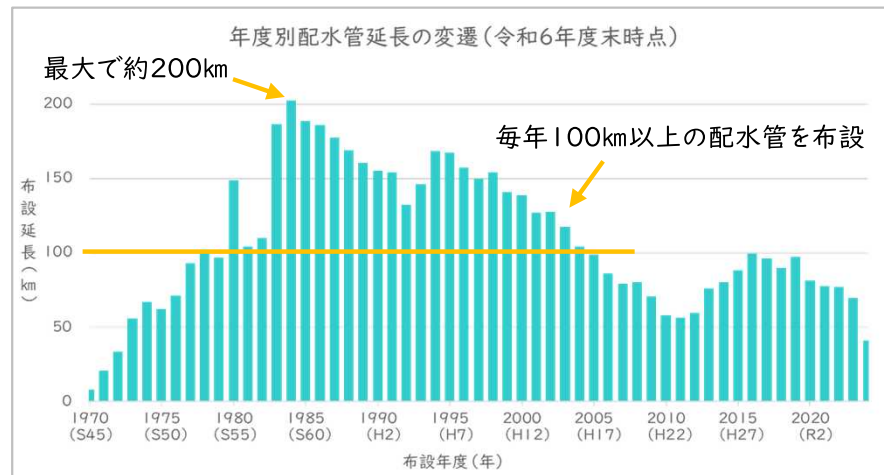


1. 配水管の現状と計画の目的

◆ 配水管の現状

配水管の延長、耐震化に関する数値	
配水管総延長	5,963km
うち、耐震管延長	2,137km
配水管の耐震管率	35.8%

(令和6年度末時点)

経年化する大量の
配水管の更新

必須!

災害に備えた
配水管の耐震化

事業量・事業費の増加

将来的な見通しを立て、効率的・効果的な整備
(更新・耐震化など)を進めるため、
配水管整備計画を策定

◆ 計画の目的・対象

【目的】
札幌水道のシステムをより強靱にし、
安定的な給水を行うこと

【対象】
市内すべての配水管

2. 計画のポイント

① 管路の延命化

問題なく使用できる配水管は、可能な限り長く使っていく

これまではダクタイル鋳鉄管に更新基準年数を設定し延命化

更新基準年数	埋設地域	外面腐食対策※
40年	JR 函館本線以北 (腐食性土壌が広く分布)	なし
60年	JR 函館本線以南	なし
80年	市内全域	あり

※管の外面にポリエチレン製の被覆(ポリエチレンスリーブ)を施すもの

- ・ポリエチレンスリーブ被覆の防食効果
 - ・管材質の耐腐食性能等の向上
- 等により、さらに延命化できる可能性が示された

目標とする使用年数を最大100年に

- ・ただし、漏水リスクの高い配水管は、
100年を待たず優先的に整備

② 優先順位の設定

優先順位の高い配水管から整備することで効率的・効率的な整備を進めていく

配水管の役割

外面腐食による
漏水のリスク地震発生による
漏水のリスク

外的要因※

※他工事に伴う配水管の移設の必要性など

配水管ごとに異なる
これらの項目を評価

すべての配水管に優先順位を設定

- ・優先順位はA、B、C、D、Eランクの5段階で設定

優先順位

高 ← A B C D E

一定の時期に整備が集中しないよう、優先順位を考慮し、
事業量・事業費の平準化も図っていく

3. 配水管整備事業

◆ 配水管整備事業2025-2034

【事業の概要】

- ・事業期間 : 10年 [令和7(2025)年～令和16(2034)年]
- ・事業延長 : 約510km (優先順位の高い配水管を対象)
- ・概算事業費: 約1,400億円
- ・指標と目標数値

指標	現在の数値	目標数値 (第2次水道ビジョンと同様)
漏水率	2.3% (過去5年平均)	令和16年度まで毎年2.3%以下を維持
配水管の耐震管率	35.8% (令和6年度末)	令和16年度までに43.0%以上に
医療機関への供給ルートの耐震化完了箇所	96か所 (令和6年度末)	令和16年度までに104か所以上に